

土木学会四国支部研究助成（A） 研究成果報告書
地震防災講演会（一般公開）の開催

愛媛大学大学院理工学研究科環境建設工学コース・助教授
（愛媛地震防災技術研究会 会長）森 伸一郎

平成 18 年 7 月 27 日（木），愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホールにおいて，愛媛地震防災技術研究会の第 13 回研究会における講演会を，外部講師による招待講演や会員の講演を組み合わせ企画された愛媛地震防災技術研究会の主催による「地震防災講演会」（一般公開）が開催されました．参加者は，一般市民と研究会会員を含めて 26 名でした．

この講演会の運営には，土木学会四国支部研究活動助成金（A）が充てられましたので，報告いたします．

【講演プログラム】

日時：平成 18 年 7 月 27 日（木）15:00～17:00

場所：愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホール

- 15:00～15:40 招待講演「自然災害のリスクファイナンスの現状」
東京海上日動リスクコンサルティング 矢代 晴実 博士
- 15:40～16:20 「災害ボランティア活動から学んだこと」
一新潟県中越地震・平成 16 年台風災害・インド洋津波災害での救援
物資と災害ゴミの実態を比較して今後のあり方を考える－
呉市消防局 林 国夫 氏（会員）
- 16:20～16:40 「ジャワ島中部地震被害調査の報告」
愛媛大学大学院理工学研究科 森 伸一郎 氏（会員）
- 16:40～17:00 「えひめ愛ウェーブ 2005 の報告」
キンキ地質センター 増田 信 氏（会員）



写真-1 熱心に聞き入る参加者

写真-2 クロスロードゲームの様子

【講演内容】

1. 招待講演「自然災害のリスクファイナンスの現状」

東京海上日動リスクコンサルティング 矢代 晴実 博士

大規模災害発生時におけるリスクマネジメントの重要性について、リスクファイナンスの視点から、基本的な専門用語の解説を交え、自治体や事業体がどのように事業継承していけばいいのかを説明された。その上で、地震被災の財務への影響として、資産価値の下落・休業損失・資金繰りの悪化などの直接的な影響や、株価の下落・格付けの低下・資金調達条件の悪化などの間接的な影響を最小限にするために、企業の規模、業種、対象とするリスク、財務状況に応じて、地震デリバティブ・保険リスクの証券化・コンティンジェントキャピタルなど様々な手法が考えられることなど、リスクファイナンスの現状が紹介された。

2. 「災害ボランティア活動から学んだこと」 呉市消防局 林 国夫 氏

新潟県中越地震や平成 16 年呉市での台風災害、タイ南部におけるインド洋大津波の 3 つの災害において、現地で災害ボランティア活動に携わった経験を踏まえて、救援物資と災害ごみの実態や、今後の課題、ルールブック作りの提案などが紹介された。また、クロスロードゲームを通して、災害現場で直面する救援物資の扱いに関する判断の難しさや救援物資をさばく時の意思統一の必要性などが認識された。特に、押し寄せる救援物資の実態や災害ごみが災害を生む実情—もの凄い量の荷物が届き、職員総出でさばかなければならないこと、賞味期限のある物資やニーズに添わない物資の扱いの問題、救援物資が災害ごみと化す可能性があること—など、現地ですばさに体験しなければ知り得ないことが説明された。

3. 「ジャワ島中部地震被害調査の報告」 愛媛大学工学研究科 森 伸一郎 氏

平成 18 年 5 月 27 日早朝に発生したジャワ島中部地震によって、インドネシア中部では、およそ 6000 人が犠牲になり、被災者は 65 万人にも上った。愛媛大学防災情報研究センター・アジア地域防災情報ネットワーク部門では、この地震による被害状況の把握と、今後必要なる支援内容の提言、およびアジア地域での防災計画に資する情報を収集することを目的として、ジャワ島中部地震緊急調査団を組織した。先発隊として、6 月 14 日から 6 月 20 日までの 7 日間の現地調査を踏まえて、被害状況についての報告がなされた。家屋被害、建物被害が多いが、道路・橋梁・鉄道の被害はあっても軽微であり、全体としては無きに等しいこと、液状化・地盤沈下などの地盤変状はほとんど確認されなかったこと、ジョグジャカルタ市内では大規模な RC 建造物の被害、集中的な被害地域の存在などが確認されたこと、木の骨組みと竹造りの壁の家はレンガ造りの被害率が極めて高いところでも被害が少ないこと、電気は被害の大きな地域で 1 週間から 10 日程度で復旧したこと、ジョグジャカルタ市内以外では水を井戸に頼っており地震後も水が欠乏することはなかったことなどが説明された。

4. 「えひめ愛ウェーブ 2005 の報告」 キンキ地質センター 増田 信 氏

愛媛地震防災技術研究会では、今世紀前半に発生する可能性が高いと言われている南海地震に備えて、住民の防災意識の向上と自主防災活動の活性化を図ることを目的とした津波防災地図作成ワークショップを、平成 17 年 10 月 29 日に、愛媛県愛南町久良地区において実施した。このワークショップの開催にあたり、運営費として、愛媛新聞社主催の「愛ウェーブ 2005」の助成金が充てられたので、ワークショップの報告がなされた。久良地区住民の感想として、行政任せでなく高齢者の把握など、自分たちでできる防災対策の取り組みが必要であることや住民の中でリーダーをつくり隣近所で助け合えるように組織力を高めたいことなどが紹介された。



写真－3 矢代氏の講演



写真－4 林氏の講演



写真－5 森氏の講演



写真－6 増田氏の講演